



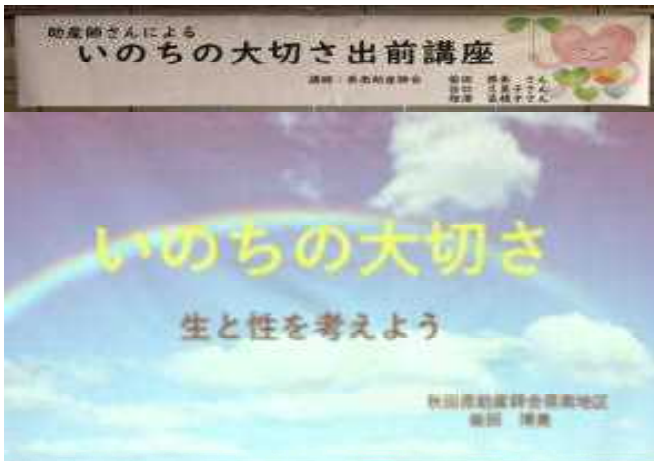
# コツコツ とこどん

大仙市立太田中学校  
令和4年10月31日  
NO. 90



うららかに たくましく ~ 耕し 萌えたち みのらせ さきみだる~

## 「いのちの大切さ」出前講座 いのちはかけがえのない大切なもの



近年、人の命が無残に奪われたり、自ら命を絶つたりと心を痛める事件が繰り返し起こっています。助産師の方々は、命の誕生のすばらしさに常に接しており、「命の尊厳」について、子どもたちに伝えていかなければならないという強い思いをもっているそうです。その思いを行動に移すべく、秋田県学校保健連合会では、秋田県助産師会の方を講師とした「いのちの大切さ」出前講座を毎年行っています。

「生命尊重」は何にもまして大切なことです。本校の自慢である花を育てる『花育』は、「命の尊さと命あるものを大切に作る心」の醸成につながる、「生命尊重」理念の具現活動でもあります。本校の願いと助産師の方々の強い思いは合致するところであり、本校では毎年のように、2年生を対象にして「いのちの大切さ出前講座」を開いています。生命の誕生、生きることのすばらしさを学ぶことは、自己有用感や自尊感情の高揚にもつながりますし、生命は大切なものであることに気付き、自他の生命を大切にしていこうとする心を大きく育てることににつながるものと思っています。



その出前講座を、10月28日（金）に3人の助産師の方を講師にお迎えして実施しました。

助産師の方から「助産師の仕事」「命の誕生、命の始まり、赤ちゃんが生まれてくる過程」「思春期のこの時期の悩み」「男女の意識や行動の違い」「自分らしく生きる、人間関係の構築」などについてのお話をうかがい、胎児人形を使った「赤ちゃんの抱き方体験」「妊婦体験」などの体験学習も併せて行いました。

一つの命がこの世の中に誕生することは何よりす

ばらしいことであり、その命を粗末にすることのないようにという願いが込められた内容でした。子どもたちは、助産師さんのお話に真剣に聞き入り、笑顔で体験学習に取り組んでいました。個々に違いはあれど、改めて命の大切さを実感したようです。



## 11月1日は「あきた教育の日」

秋田県は「あきた教育の日」を制定しています。今年で14年目を迎えることとなりましたが、ご存じない保護者の方もおられると思いますので、「あきた教育の日」について紹介いたします。

**県勢発展の原動力は「人」であり「人」は財産である。**

その「人」づくりは教育が担っていくものである。このため、県民一人一人が教育に関心をもち、また、学校、家庭、地域、企業などが連携・協力しながら子どもたちを育てていくという共通の認識に立って、教育立県を目指すために力強い教育を推進していく必要がある。

子どもたちがやがて、県内外で秋田の発展を支える「人」となることを願い「あきた教育の日」を設ける。

これが「あきた教育の日」制定の趣旨であり、「人」づくりを意識して教育に臨むこと及び家庭・地域で子どもたちを育てていくことへの取組が要請されているものと捉えています。

期日は、毎年11月1日です。（国の教育・文化週間）は11月1日～7日、昭和23年11月1日は我が国で初めて教育委員会が設置された日です）

何をするのかというと、「11月1日を前後して10月から11月にかけての期間に、教育庁各課室、教育関係機関、市町村教育委員会、学校、民間団体等の教育に関連する各種行事やイベント」を集中開催することになります。実際、本市でもたくさんの教育に係る催しがありますし、太田でも各地域毎に何かしらの取組があるのではないのでしょうか。

本校では、「太中祭」「外部の方々からのたくさんの講演や講座」「生徒会役員選挙・学級組織づくり・認証式・生徒総会」「職場体験」「進路PTA」「研究会」等々をこの期間に行います。

「あきた教育の日」を「子どもたちの今を語り、未来を語る日」として認識していきたいものです。